江戸楽

edo-gaku

2026年12月号より抜粋

横須賀

日本の産業革命の地

―小栗忠順が描いた未来





特集

日本の産業革命の地 横須賀

――小栗忠順（ただまさ）が描いた未来

二〇二七年大河ドラマ「逆賊の幕臣」（ＮＨＫ）の主人公、小栗忠順。安政七年（一八六〇）、「日米修好通商条約」の批准書交換のため、幕府使節団の一員として渡米した小栗は、ワシントンの海軍造船所を視察し、アメリカの進んだ工業技術に衝撃を受けた。日本の近代化には工業力の強化が不可欠と考え、帰国後、幕府に造船所の建設を提言。その構想はフランスの支援によって実現へと動き、一八六五年、「横須賀製鉄所」（※）が着工した。

小栗は完成を見届けることなく一八六八年に世を去ったが、製鉄所は船の修理・建造にとどまらず、鉄の加工や機械・部品の製造を担い、日本各地の工場や鉱山などに工業製品を納入。日曜日を休日にするなど近代的な制度も導入され、日本の近代化を支える一大拠点へと発展した。横須賀はいわば日本の産業革命の先駆けとなる地であったといえよう。

小栗が見据えた未来とは、どのようなものだったのか。横須賀製鉄所と関連施設を訪ね、日本の近代化の原点に刻まれた志の跡をたどる。

※フランスでは、船だけでなくエンジンや大砲なども製造する海軍工場を「アルスナル」と呼んでいた。これを「鉄を加工する場所」という意味合いから「製鉄所」と訳したが、実際には造船が中心だったため、1871 年に「横須賀造船所」へと改称された



慶応３年（1867）の横須賀製鉄所構内（横須賀海軍工廠編『横須賀海軍船廠史 第１巻』より／国立国会図書館所蔵）

参考文献：横須賀市発行『小栗上野介と横須賀』、菊地勝広『すべては製鉄所から始まった―Made in Japan の原点―』（横須賀市自然・人文博物館）、星亮一『最後の幕臣 小栗上野介』（筑摩書房）、高橋敏『小栗上野介忠順と幕末維新『小栗日記』を読む』（岩波書店）、原田伊織『小栗上野介抹殺と消された「徳川近代」幕臣官僚がデザインしたもう一つの維新』（小学館）、『歴史読本』編集部『別冊歴史読本 54 号 横須賀歴史読本』（新人物往来社）、牧野昇・会田雄次・大石慎三郎 監修『江戸時代 人づくり風土記 14 神奈川』（農山漁村文化協会）

第１章

激動の幕末を生きた 小栗忠順

小栗忠順とは、どのような人物なのか。同時代のできごとと共に、四二年の生涯を見てみよう。

	小栗忠順の人生	その頃の出来事
文政 10 年（1827） 1 歳	江戸・神田駿河台（現在の東京都千代田区）の旗本の家に生まれる。	ジョン万次郎、河合継之助、山内容堂も同年に生まれる。
安政 7 年（1860） 34 歳	1 月、日米修好通商条約の批准書交換のために遣米使節の一員としてポーハタン号に乗船。海軍造船所などを視察。帰国後、外国奉行となる。	使節団の護衛艦として勝海舟、ジョン万次郎、福沢諭吉らが乗る咸臨丸（かんりんまる）も出航。3 月、桜田門外の変。
文久 2 年（1862） 36 歳	勘定奉行、江戸町奉行、陸軍奉行、軍艦奉行など幕府の要職を歴任。	薩英戦争（1863）
元治 元年（1864） 38 歳	フランス公使レオン・ロッシュと会談。造船所の建設計画を相談。	第一次長州戦争（1864）
慶応 元年（1865） 39 歳	横須賀製鉄所起工式。	薩長同盟（1866） 王政復古の大号令（1867） 江戸開城（1868）
慶応 4 年（1868） 42 歳	戊辰戦争では徹底抗戦（主戦論）を唱える。明治維新により全ての役職を罷免され、領地の一つである権田村（現在の高崎市倉渕町権田）へ移住。同年、明治新政府軍に斬首される。	
明治 4 年（1871）	横須賀製鉄所の第１号ドックが完成。「横須賀造船所」へと改称。	廃藩置県（1871）



『万延元年遣米使節図録』より。左から副使・村路淡路守、正使・新見豊前守、目付・小栗豊後守（のち上野介）（画像提供：横須賀市自然・人文博物館）

日本の近代化は小栗の敷いたレールの上に実現したといわれている。横須賀製鉄所の建設にあたり、小栗は「土蔵付きの売家の名誉を残す」と語ったとされる。たとえ幕府が倒れ、新政府に政権（家）を譲ることになっても、近代化を支えるこの施設（土蔵）を日本の財産として後世に残すことが重要だ、という思いが込められていた。



出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

小栗忠順の主な功績

- **横須賀製鉄所**を建設
- 横浜に**フランス語伝習所**を設立
- 株式会社方式で**築地ホテル**（外国人用のホテル）を建設
- 幕府主導により、大坂や兵庫の商人の出資による**貿易会社「兵庫商社」**を設立
- 商工会議所の前身となる**「諸色会所」**を設立
- **フランス式軍隊**の整備
- **滝野川反射炉**（大砲製造所）・**火薬製造所**を設立



山本詔一さん

1949年神奈川県横須賀市生まれ。専修大学卒。横須賀で書店を営業するかたわら郷土史、特にペリー来航以降に始まる日本の近代化を庶民がどのように見て、体験してきたのかを研究。横須賀市文化行政専門員。発足当時から横須賀開国史研究会会長を務めている。著書は『ヨコスカ開国物語』『浦賀奉行所与力・中島三郎助の生涯』など多数

×

岩下哲典さん

1962年信州（長野県）塩尻市生まれ。青山学院大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程満期退学。博士（歴史学）。東洋大学文学部・大学院文学研究科教授。人間科学総合研究所所長。著書は『江戸のナポレオン伝説』『江戸の海外情報ネットワーク』『小栗忠順と幕末のインテリジェンス』など多数。大河ドラマ「逆賊の幕臣」時代考証を担当



撮影：桜野良充



明治5年（1872）の横須賀造船所。横須賀海軍工廠編『横須賀海軍船廠史 第1巻』（国立国会図書館所蔵）

小栗忠順の生涯と横須賀

幕末、小栗忠順はアメリカの地を踏み、日本への西洋技術導入の必要性を痛感した。小栗が横須賀製鉄所に込めた想いとはどんなものだったのか。二人の研究者に聞いた。

国家、そして国を支える人々の生活に思いを馳せた生涯

ねじ一つから国家国民の理想を描く

岩下哲典（以下、岩下）　小栗忠順が幕府の役職についていた当時の日本では、イギリスをはじめとする西洋列強の東洋進出で、植民地化の危機が実感されていました。特に、天保十三年（一八四二）、アヘン戦争により大国・清がイギリスに敗れたという情報が伝わり、幕府は、西洋の軍事力を取り入れる必要性を感じるようになります。弘化元年（一八四四）にはオランダ国王からの開国勧告があり、嘉永四年（一八五一）には、アメリカに渡ったジョン万次郎が帰国しアメリカの情報がもたらされました。そして翌年にはオランダからペリーの来航を予告する「別段風説書」がもたらされます。そうした状況に対して、幕府では老中の阿部正弘がペリー来航後、大船建造を解禁し軍備を強化。講武所（武芸の訓練機関）や蕃書調所（外交文書を翻訳する機関、現在の東京大学の前身）などを設立します。その中で旗本である小栗忠順も、西洋の文明や技術の必要性を感じていくことになります。小栗は九歳から安積艮斉という西洋学術への関心が高い儒学者に学んでいたので、西洋文明を受け入れやすかったのではないかと思います。

山本詔一（以下、山本）　そうした時代背景はありますよね。そして、人生の転機と言えるのが、万延元年（一八六〇）に、勝海舟やジョン万次郎とともにアメリカに渡ったことです。小栗は日米通商条約の批准書交換のため、日本使節団の監査として三カ月近くアメリカに滞在し、ワシントンでは巨大な蒸気船を建設する造船所を視察しました。ここでは製鉄機械や旋盤、船体の基礎となる鉄骨などの部品や、部品を結合するためのねじが作られていました。それを見た小栗は、「自分が乗ってきたアメリカの軍艦もここで造られたのか」ということを、驚きをもって受け止めたのではないでしょうか。今の日本ではすべてヨーロッパから提供されているが、アメリカでは小さなねじも、大きな鉄の板も自国で造られている。これを日本でやらなければならないと実感したのだと思います。

岩下　小栗の菩提寺である東善寺（群馬県高崎市）には、この時小栗が持ち帰ってきたねじが今も大事に保管されています。ねじ一つ緩んでも機械は稼働しない。そうした力強さを持つねじの重要性に感銘を受けたのではないでしょうか。そしてそれは国も同じことだと考えた。つまり、国民一人一人が強くないと国家として立ち行かない。ねじ一つから、国民国家そのものを理解したのでしょう。





小栗上野介が最期の日々を過ごした権田村（高崎市倉渕町）にある東善寺には、小栗上野介や家臣の墓石と、小栗がアメリカから持ち帰ったねじが保管展示されている（高崎市倉渕町169）

造船所が造られた横須賀の地理的条件

岩下　小栗はアメリカから帰国すると、造船所の建設に取り掛かります。日本が協力国として手を組んだのがフランスでした。イギリスやロシアは、日本を植民地にしようと虎視眈々と狙っていました。フランスも同じでしたが、強国のイギリスやロシアに依存すると強力に支配されかねない。二国よりは力の弱い国と手を組む方が安全だという狙いもあったと思います。また、日本では十九世紀初頭からナポレオンの事蹟が知られていました。幕府の中には伝記を読んでいる人もいて、陸軍国としての強さを知っていた。そしてもう一つ、フランスでは蚕の病気である微粒子病が蔓延し養蚕業が壊滅的な状況に陥っていました。そこで日本から優先的に蚕種を輸出することで、フランスに完全に支配されない関係を築けるという思惑もあったと思います。

山本　造船所建設に関して、幕府には反対する者もいましたが、小栗が幼少の頃から共に学んだ栗本鋤雲やフランス人の神父メルメ・カションを通じて、駐日フランス公使レオン・ロッシュとの対話を重ね、造船所建設はフランス政府に委嘱することが決まりました。そうした人の繋がりというものも造船所建設がスムーズに進んだ理由の一つだったように思います。

　ロッシュは専門技術者として、技師のフランソワ・レオンス・ヴェルニーを推薦。元治二年（一八六五）に二人は横須賀製鉄所建設の約定書をかわすために幕府関係者と会議を持ち、横須賀に製鉄所・修船所・造船所などを建設することが確認されました。横須賀が選ばれたのは、江戸に近いという地理的な理由がありました。小栗がアメリカで見た造船所は首都であるワシントンにあり、首都に近いところに造りたいという意見があったんだと思います。また、自然環境という点でも適していた。東京湾は内海ですが、横須賀はそのさらに内になる。また、大型船が入っても十分に深い水深があったということも造船所建設に適していました。フランスにはツーロンという軍港がありますが、まさにその地と地形も似ています。

岩下　ええ。ツーロンは、ナポレオンが最初に攻撃をし陥落させたということでも日本人に知られていました。幕府にはツーロン港のことを知っている者も多く、ある程度馴染みがあったのだろうと思います。

山本　造船所ができるまでは、

横須賀が日本で初めて！

造船所建設によりフランスの技術や文化ももたらされた横須賀。
ここには“日本で初めて”がたくさんある。



横須賀市自然・人文博物館に展示されている
「横須賀製鉄所のバルブの設計図」
（石井家寄贈、市指定重要文化財）

日本で初めて メートル法が使われた設計図

当時の日本では、長さや重さを表す単位として、1尺（30.3cm）、1貫（3.75kg）という単位が使われていた。しかし、ドックや工場などは、ヴェルニーをはじめとするフランス人技術者が設計したため、設計図にはフランスで使われていたメートルの単位を使用。工事を行う日本人はそれを尺の単位に置き換えて工事を進め、見事ドックを完成させたのである。



明治５年（1872）、製綱所（ロープ工場）の時計塔（横須賀海軍工廠編『横須賀海軍船廠史 第１巻』国立国会図書館所蔵）

世界遺産の富岡製糸場のルーツ

明治５年（1872）に建てられた富岡製糸場（群馬県）。現在も残る建物は横須賀製鉄所のフランス人技術者バスチャンが設計した。その特徴の「木骨煉瓦造」（木材の骨組みに煉瓦を積み上げる工法）や日本にはなかった屋根の工法である「トラス工法」は横須賀製鉄所内にあった建物がそのモデルとなっている。





現在も残る富岡製糸場の建物。国宝の東置繭所（左）と繰糸所内部（右）
（画像提供：富岡市）

24時間の時計で労働時間を管理

江戸時代には現在の時計は普及しておらず、働く時間も夜明けから日没までという曖昧なものだった。そこで、製鉄所では製綱所（船に使うロープを作る工場）の上に時計台を造り、これを標準時間とした。労働時間は6：30から17：30と決められ、15分遅れると欠勤。労働者は同じ時間に仕事をスタートし、お昼ご飯を食べ、午後仕事を再開、夕方に仕事を終えるという労働時間が定着していくのである。



明治時代には観光名所となった横須賀製鉄所。この「横須賀明細一覧図」（画像提供：横須賀市自然・人文博物館）は製鉄所の内部を紹介したイラストマップで人気のお土産となった

休息を取る日曜日も誕生

時間と共に西洋式の曜日制度も採用された。それにより日曜日が休日に。また、当時の日本では珍しい月給制も採用される。さらに医師が駐在し、職員や職工の病気の治療や、労働者への健康診断も実施されたりした。横須賀では他の地域にさきがけて、江戸時代とは大きく異なる労働管理や時間管理が普及していく。





左／明治元年の港内引揚ドック　右／建設中の１号ドック
（ともに横須賀海軍工廠編『横須賀海軍船廠史 第１巻』国立国会図書館所蔵）

横須賀は水田や田畑もほとんどない漁村でした。山を切り崩して平地を広げ、ドックを造る場所を確保しました。その作業には周辺の村々から数百人の人々が集められました。当時から浦賀港には多くの生活物資が入ってきていましたから、彼らの生活を支えるために浦賀港の存在も重要でした。横須賀の造船所建設を支えるために、周辺部も発展していきました。

小栗が思い描いた日本の近代化

岩下　小栗はアメリカで近代的な工業を目の当たりにするとともに、近代的な生活も体験しました。ホテルには水洗トイレがありベッドで眠る生活。食べ物は口に合わなかったようですが、それ以外の豊かな生活を体験したんですよね。小栗は製鉄所以外にも、日本で最初の株式会社である総合商社の「兵庫商社」の設立を建議したり、日本初の本格的な洋風ホテルの「築地ホテル」も構想したりしていました。まさに近代化を推し進め、アメリカのような社会をつくり上げたいと思っていたのではないでしょうか。こうしたことは新政府が形にしていくわけですが、後年、大隈重信は「明治政府の近代化政策は小栗上野介の亜流（模倣）にすぎない」と語ったと言われています。

　明治維新直後、小栗は権田村（群馬県高崎市倉渕町）に土着し、「前朝の頑民」（※）として富岡製糸場を設計したフランス人のバスチャンは、横須賀製鉄所で働き、その建物を見本に建設したと言われています。

岩下　そうですね。まさに日本の工業、近代化の原点が横須賀だと言えるのではないでしょうか。

山本　実は近代化が進められる元となったのが横須賀であり、それは小栗のおかげなんだということをもっと多くの方に伝えていきたいですね。

岩下　小栗が最期の時を過ごした高崎市倉渕町には横須賀市民休養村として昭和六二年（一九八七）に開業し、のちに高崎市に寄贈された「はまゆう山荘」があります。

山本　横須賀の人は一度は必ず倉渕に行くというぐらい（笑）。「はまゆう山荘」の建設には東善寺の村上泰賢ご住職の尽力も大きいと伺っています。横須賀と倉渕が今でも小栗で繋がっている。それはやはり、小栗忠順が、国、そして村の人々の生活に思いを馳せた結果なのではないかと思っています。

※「新政府に従わない頑固な民」の意。権田村に移る前に小栗が残した言葉


ヴェルニー・小栗記念館に展示されている重さ３トンのスチームハンマー

第2章

横須賀 近代への扉をたずねて

嘉永六年（一八五三）、浦賀への黒船来航を機に幕を開けた横須賀の近代化。その歩みを大きく加速させたのが、横須賀製鉄所の建設だった。横須賀の歴史をたどることは、日本の近代化の原点を訪ねることでもある。その歴史をたどる旅へ出かけよう。

AREA 1

ヴェルニー・小栗公園から三笠公園へ


JR 横須賀駅。駅舎は大正３年（1914）に建てられた２代目の駅舎の形をそのまま残し、昭和 15 年（1940）に改築されたもの

近代日本を鍛えたスチームハンマー

旅の始まりはＪＲ横須賀駅。横須賀製鉄所が建設され、日本の重要な軍事拠点となった横須賀への物資運搬を目的として横須賀線が明治二二年（一八八九）に開通した。同年、横須賀駅も開業。全国でも珍しい階段の無い駅で、これは軍の資材を鉄道で効率よく積み下ろしするための構造という。

駅前に広がる横須賀湾は入り江が連なり、天然の良港となっている。駅徒歩一分、海沿いに細長く広がるヴェルニー・小栗公園の西端に建つ洋館が、「ヴェルニー・小栗記念館」だ。ここからは横須賀市自然・人文博物館の学芸員・菊地勝広さんに案内していただこう。

記念館が顕彰する人物は、一八三七年フランス生まれのフランソワ・レオンス・ヴェルニー。当時最先端の造船・工業技術を身につけた技師で、横須賀製鉄所の建設のために招かれて来日した。館内の見どころは、重さ三トンと〇・五トンの二台のスチームハンマー。蒸気の力でハンマーを持ち上げ、落下させることで鉄を鍛える工作機械で、これによって大型船をはじめ様々な機械や建造物が造れるようになった。展示されている二台はいずれも一八六五年にイギリスで製造され、オランダ経由で横須賀に輸入されたもので、国内に現存する最古のスチームハンマー。世界的に見ても最古級で、国指定重要文化財となっている。「三トンの方は米軍基地内で一九九七年まで現役で稼働していたものです。これを保存・展示するため、ヴェルニー公園の整備に合わせて二〇〇二年に記念館が建設されました。




上／ヴェルニー・小栗記念館。ヴェルニーがフランス・ブルターニュ地方のブレストにある海軍施設で造船技師を務めていたことにちなみ、同地方の住宅様式を取り入れた建物となっている　左／フランソワ・レオンス・ヴェルニー



菊地勝広 さん

横須賀市自然・人文博物館主査・学芸員（近代建築史担当）。博士（工学）。横須賀製鉄所をはじめとする近代建築の構造技術と建築史を研究

スチームハンマーに刻まれた銘には「ロッテルダム」「1865（年）」等の文字が見える





ヴェルニー・小栗公園から海越しに米海軍横須賀基地を望む

スチームハンマーによって、長くて強度の高い一枚の鉄板を成形できるようになりました。当時は軍艦の性能が戦争の勝敗を左右したため、他国との建艦競争においてもスチームハンマーは重要な役割を果たします。また、船の建造だけでなく、機械部品の製造にも活用され、ここで作られた部品は日本各地の工場や鉱山などにも納められました」と菊地さんは話す。

ヴェルニーが横須賀に滞在したのは約十年間という。では、横須賀製鉄所の建設を推進した小栗はどうだったのだろうか。「小栗が長期間、横須賀に滞在していたとは考えられません。外務大臣、いや、総理大臣級ともいえる重要な立場の人ですから。対馬がロシアに占領された際には日本側の代表として交渉に当たるなど、全国で八面六臂（はちめんろっぴ）の活躍をしていました。もちろん、横須賀の現地を検分したと考えられる記録は残っています。小栗が検分したのと同じルートをたどれるのが、現在の『軍港めぐり』（P16）です。ぜひ当時の小栗の足跡を追体験し、彼が目にした景色を感じてほしいですね」と菊地さんは語る。

記念館では、二〇二七年大河ドラマ「逆賊の幕臣」（NHK）の放送開始に向けて展示替えを進め、二〇二六年十一月十四日に、小栗の功績と絡めた展示内容へとリニューアルした。

海越しに望む横須賀製鉄所

ヴェルニー・小栗記念館を後にし、「旧横須賀軍港逸見（へみ）波止場衛門」へ。こちらは横須賀軍港の正門にあたり、現在残っている衛兵の詰所は昭和四～五年頃の建築と推定されている。小栗の生きた時代のものではないが、横須賀が日本の主要な軍港として発展してきた歴史を今に伝えている。



２棟ある塔の屋根は銅板で造られたドーム形

海を左手に公園内を進むと、対岸に米海軍横須賀基地が見えてくる。かつて横須賀製鉄所があったこの場所は、通常、一般公開されていない。基地内に残る「一号ドライドック」（※）は、江戸時代末期に着工し、明治四年（一八七一）に完成した日本最古の石造ドライドックだ。その後、明治初期に二号・三号ドックも造られ、いずれも百年以上を経た今なお現役で使用されている。「明治初期にはコンクリートがなかったため、石を積み上げて造られました。使われたのは、江戸城などにも用いられた伊豆石です。地盤の良い場所に築かれたことも、長く使い続けられる理由の一つでしょう。フランスには何百年、千年と続く石造建築が数多くあるように、良質な石を見極める技術や知識が培われていたのだと思います」

ヴェルニー・小栗公園
横須賀市東汐入町 1-1
TEL 046-845-6660

ヴェルニー・小栗記念館
ヴェルニー・小栗公園内
TEL 046-824-1800

※船を入れたあと水門を締めて排水し、修理や建造を行う掘割



明治 21 年（1888）「横須賀明細一覧図」（部分／画像提供：横須賀市自然・人文博物館）。横須賀造船所の様子が詳細に描かれている。湾内には蒸気船や大型帆船も見られる



米海軍横須賀基地内にある横須賀製鉄所１号ドライドック（左）。１～３号は大きさが異なり、用途に応じて使い分けられる（画像提供：米海軍横須賀基地）



「明治 22 年横須賀全図」（石井家寄贈、横須賀市自然・人文博物館所蔵）。３基のドライドックが描かれているのがわかる（円の箇所）



明治13年（1880）頃に撮影された横須賀造船所



明治２年（1869）の製鉄所構内。構内にはドックのほか錬鉄所、鋳造所、旋盤所、製綱所（ロープ工場）などがあった（国立国会図書館所蔵）

横須賀とフランスの絆を語り継ぐ

ヴェルニー・小栗公園は元は一九四六年に「臨海公園」として開園した後、二〇〇一年に「ヴェルニー公園」としてフランス庭園様式にリニューアル。そして二〇二六年、「小栗」の名を加えることになった。園内にはフランス式花壇や噴水、洋風あずまやなどが配され、春と秋にはバラが咲き誇る。

公園の東端にある「ティボディエ邸」は、横須賀製鉄所の副首長として明治二年（一八六九）から六年半滞在したフランス人、ジュール・セザール・クロード・ティボディエの官舎だ。現在の建物は外観を再現し、旧邸の小屋組みを移設して展示するほか、横須賀製鉄所から生まれた技術や文化、習慣を紹介する展示コーナーも設けられている。

ティボディエ邸リーダーの及川明敏さんに解説していただいた。「外観は再現したものですが、内部では防火や耐震を目的とした木骨煉瓦壁や、トラス構造の屋根の小屋組みを復元展示しています。日本の伝統的な建物では、屋根の重さが大黒柱などを伝わって下へと伝わります。一方、トラス構造は荷重を横方向に分散させ、壁へと伝えます。体育館と同じ構造で、建物の中央に柱を立てる必要がなく、広い空間を確保できるのです。旧ティボディエ邸は一八六九年に建てられ、関東大震災でも倒壊を免れ、二〇〇三年の解体時まで本州最古級の西洋館とされていました」



ヴェルニー・小栗公園には約130種・1,300株のバラが植えられている。見頃は5月上旬～5月下旬と、10月中旬～11月中旬





上／2025年のヴェルニー・小栗祭式典
左／公園内に建つ小栗（右）、ヴェルニー（左）の胸像

館内のシアターでは、「横須賀タイムトラベルツアー」と題した映像を上映している。アテンダントのナビゲーションのもと、3D映像などを駆使し、黒船来航から横須賀製鉄所の建設に至る歴史をわかりやすく紹介する。「ヴェルニー・小栗記念館もティボディエ邸も、展示物や建物そのものが貴重ですが、何よりスタッフの皆さんのホスピタリティが素晴らしい。しっかりと研修を受け、来館者に展示物について丁寧に解説されています」と、菊地さんも太鼓判を押す。

園内にある小栗とヴェルニーの胸像の前の広場では、毎年十一月、市主催の「ヴェルニー・小栗祭式典」が開催されている。日本の近代化と横須賀の発展の礎を築いた二人の功績を顕彰し、未来へと伝える催しだ。駐日フランス大使、姉妹都市ブレスト市長をはじめ内外多数の来賓が出席する。並んで建つ二人の胸像は、横須賀製鉄所があった方向の海を見つめている。





上／記念艦「三笠」（後方）と東郷平八郎の銅像　右／艦内を案内してくれた「公益財団法人 三笠保存会」事務局長の三輪一雅さん。「甲板の上は一部を除き復元されたものが多いのですが、甲板から下の船体の鋼鉄や骨組みは、ほとんどが明治当時のままです」

(公財)三笠保存会
横須賀市稲岡町82-19
TEL 046-822-5225

小栗に感謝した東郷平八郎

菊地さんの案内はここまでとし、ヴェルニー・小栗公園を後にして三笠公園へと向かう。ここに保存されているのが、日露戦争で東郷平八郎司令長官が乗艦し、日本海海戦でバルチック艦隊を撃破した戦艦「三笠」だ。日本の歴史を物語る貴重な艦として百年前の一九二六年から横須賀に保存・展示されている。

日露戦争は小栗の生きた時代よりずっと後のことだが、今回、三笠に立ち寄ったのは、東郷平八郎が「日露戦争の勝利は横須賀造船所があったからこそ」と小栗の子孫に感謝の意を表したという逸話が伝わるからだ。若き日には薩摩藩士として薩英戦争や戊辰戦争も戦った東郷。小栗とは異なる立場から日本の近代化を見つめてきたが、小栗の先見の明には立場を超えて敬服していたことが窺える。



艦内の展示室。写真は、三笠がバルチック艦隊を迎え撃つ時の最上甲板の様子を描いた絵で、手前にはそのとき東郷平八郎が使用していたツァイス社の双眼鏡が展示されている

ティボディエ邸のエントランスで出迎えてくれた及川明敏さん。天井には、旧邸の解体時に保存した実物の部材によるトラス構造を復元展示





上／「よこすか近代遺産ミュージアム」として復元された「ティボディエ邸」　右／旧ティボディエ邸の解体時に保存した「木骨煉瓦壁」の一部を展示



よこすか近代遺産ミュージアム
ティボディエ邸
ヴェルニー・小栗公園内　TEL 046-827-7003

AREA 2

走水水源地から観音埼灯台※へ

※「埼」の字は海上保安庁の海図における表記に基づく





上／横須賀市自然・人文博物館の展示室。写真の手前に写るのは小栗とヴェルニーの胸像
左／博物館では初代の「観音埼灯台」に使われた横須賀製鉄所製の煉瓦を展示

造船所がもたらした横須賀の近代的水道

ここからは横須賀製鉄所が生み出した横須賀市内の産業遺産を巡ってみよう。まずは、ヴェルニー・小栗公園で見学したことのおさらいと、この後のルートの予習を兼ねて、「横須賀市自然・人文博物館」へ。常設展示ではペリー来航や横須賀製鉄所の歴史と、その後の横須賀の都市化と暮らしの変化を物語る資料なども展示している。二〇二六年十二月十九日からは常設展示室内に小栗忠順の展示コーナーが新設される。

続いて「走水水源地（はしりみずすいげんち）」へ。「走水」は『古事記』や『日本書紀』にも出てくる古い地名で、ヤマトタケルの故事を伝える走水神社は鳥居の向こうに東京湾の絶景を望める。

走水水源地は、明治九年（一八七六）、ヴェルニーが約七km先の横須賀造船所の用水としてこの地の湧水を水道として引いた近代的な水道施設。明治四一年（一九〇八）には市営水道として横須賀の一部地域に給水されるようになり、現在も一日約千トンを供給している。国道十六号を挟み山側には明治三五年（一九〇二）建造の煉瓦造貯水池があり、海側には明治四一年建造、日本に現存する最古級の鉄筋コンクリート造の浄水池があり、ともに国登録有形文化財に指定されている。また、駐車場内の水栓からは、ミネラルを豊富に含む走水の水を飲むことができ、「ヴェルニーの水」と名付けられて人々に親しまれている。

周辺施設にも影響を与えた横須賀製鉄所

「観音埼灯台」もヴェルニーの遺産のひとつだ。初代の灯台はヴェルニーが建設したもので、横須賀製鉄所で焼かれた煉瓦によって造られた。明治二年（一八六九）建造、日本初の洋式灯台である。現在は三代目で、大正十四年（一九二五）築の鉄筋コンクリート製。上まで登ることができるので、横浜や川崎、東京、千葉などを一望できる東京湾の絶景を堪能しよう。

横須賀製鉄所のドックは米海軍横須賀基地内にあるため見学の機会が限られているが、浦賀にある「浦賀ドック」は二〇二一年に住友重機械工業株式会社から横須賀市に寄付された施設で、ガイドツアーに申し込めば見学できる。こちらは明治三二年（一八九九）に造られたもので、煉瓦造りのドライドックを見学できるのは国内で唯一という貴重な施設だ。建造を担ったのは、横須賀製鉄所に設置された技術者養成機関「黌舎（こうしゃ）」で育成された技術者たち。二〇〇三年に閉鎖されるまで、日本丸、青函連絡船、護衛艦など数多くの船舶の修理に使われてきた。

今回の旅の最後に訪れたのは、ペリー上陸記念碑。「横須賀」「浦賀」と聞けば、誰もが思い浮かべる日本史の舞台だ。黒船来航に衝撃を受け、激動の幕末に日本の行く末を案じた人物は数多い。若き日の小栗もまた、その一人だった。非業の最期を遂げた小栗だが、その功績は日本の近代化の礎となった。その偉業を成し遂げた主要な舞台こそ、横須賀だったのである。





上／観音埼灯台。写真左手、海の向こうに見えるのは房総の山並み
左／灯台の頂上では巨大なレンズを見ることができる　右／初代の観音埼灯台（画像提供：公益社団法人 燈光会）

ペリー上陸記念碑が建つ「ペリー公園」には、黒船来航に関する歴史的資料や模型などを展示する「ペリー記念館」もある

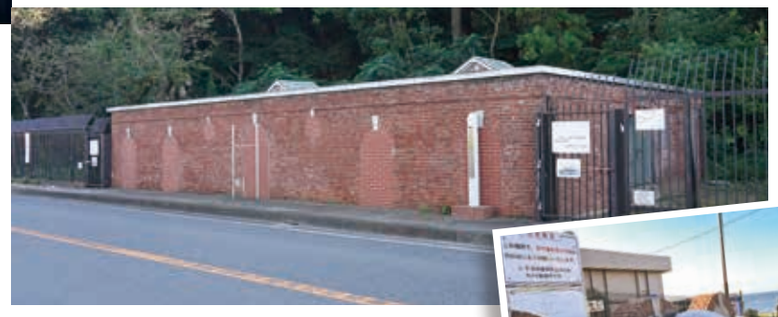






上／上から見渡す浦賀ドック。巨大な船を収容したドックの大きさを実感できる　左／浦賀ドックの底部に降りて撮影。浦賀ドックは今後、その歴史を伝える観光拠点としての活用が検討されている

横須賀市自然・人文博物館　横須賀市深田台 95　TEL 046-824-3688
走水水源地　横須賀市走水 1-2-1　TEL 046-824-2171
観音埼灯台　横須賀市鴨居 4 丁目 1187　TEL 046-841-0311
ペリー上陸記念碑　横須賀市久里浜 7-14　TEL 046-834-7531





上／走水水源地の煉瓦造貯水池は国道から見ることができる　右／「ヴェルニーの水」を汲みに、タンクを手に訪れる人々の姿が絶えない



第3章

横須賀の旅

歴史、文化、グルメを楽しむ

小栗の歴史をたどったら横須賀の街を訪れたい。食や文化を味わって街の魅力を発見しよう。

© 株式会社トライアングル



横須賀港を背景に潮風を感じながらご当地料理に舌鼓





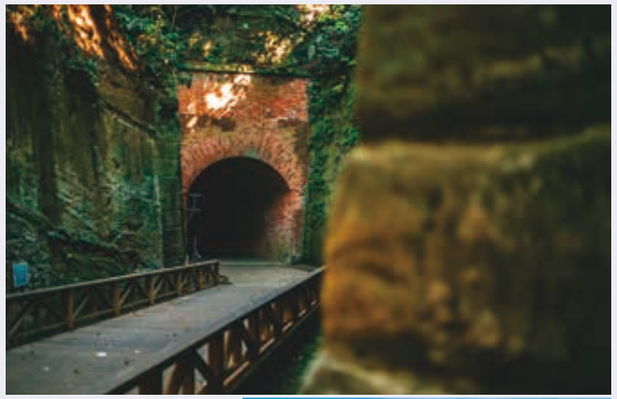
いちご よこすかポートマーケット

三浦半島の地産食材を味わい学び感じる施設

「三浦半島フードエクスペリエンス」をコンセプトに、地元の食が集結。かつて冷凍倉庫だった建物をリノベーションし、買い物やグルメが楽しめる観光拠点として2022年にリニューアルオープンした。手づくり焼きプリンの「マーロウ」や海鮮料理の「船主（ふなおさ）」、横須賀三大グルメの一つ・ヨコスカネイビーバーガーの「ハニービー」など、多彩なジャンルの飲食店が並ぶ。横須賀や三浦半島産の食材を使用したメニューが味わえる他、地元産野菜や土産スペースも。オーシャンビューのウッドデッキでも食事を楽しめるのが嬉しい。

また新鮮な農水産物、こだわりの食品、心ときめく雑貨など横須賀ならではの朝市も不定期で開催。地元に縁あるアーティストたちの生演奏なども行われているのでイベント情報もチェックしよう。

横須賀市新港町6
TEL 046-823-1015
〈営業時間〉
10：00～19：00
（店舗によって異なる）
※年末年始の営業についてはHPをご確認ください



横須賀有数の観光地で、日本遺産構成文化財。東京湾の真ん中に位置することから、幕末から昭和20年（1945）まで、東京を守るための要塞が築かれた





猿島

三笠桟橋から10分 東京湾に浮かぶ無人島

京急線「横須賀中央駅」から徒歩約15分、「三笠公園」の入口にある「三笠ターミナル／猿島ビジターセンター」が船乗り場。そこから10分で無人島・猿島へ。東京湾唯一の自然の島だ。釣りやバーベキューなど、一年を通してアウトドア・アクティビティが楽しめる。周囲1.6kmの島内には、太平洋戦争終戦まで一般の立ち入りを禁止していた旧日本軍の要塞が残っている。緑深い大自然の中に現れる、煉瓦積みのトンネルや砲台跡などの旧軍施設は、首都防衛の拠点と位置付けられた歴史を今に伝える。猿島を知り尽くしたプロガイドが分かりやすく解説するツアーもおすすめ。1日に複数回開催されている（各回、随時受付）。

横須賀市猿島1　TEL 046-825-7144（株式会社トライアングル）
猿島公園入園料＋乗船料（往復）
大人1,050～2,500円、中学生800～2,250円、小学生400～1,250円
※料金は、時期および居住地（横須賀市内・市外）により異なる
〈運航時間〉行き9：30／帰り17：00（11/1～2月末は帰り16：00）



海上自衛隊の潜水艦や護衛艦、米海軍のイージス艦など、観られる艦船は日によって様々。タイミングによっては空母や南極観測船など観られる日も

横須賀市本町2-1-12　TEL 046-825-7144
〈運航日〉QRコードより確認
〈運航時刻〉（約45分／1周）
10：00、11：00、12：00、13：00、14：00、15：00
〈乗船料〉日によって変動
横須賀市外在住　大人2,000～2,500円　子ども1,000～1,250円
横須賀市在住　大人1,000～1,250円　子ども500～620円
※事前予約推奨

YOKOSUKA 軍港めぐり特別便（仮称）
2027年 1月16日（土）～12月31日（金）
上記期間の「12時便」が特別便運航　※予定

YOKOSUKA 軍港めぐり

明治からタイムスリップ YOKOSUKA 軍港めぐり特別便

小栗忠順をきっかけに造船事業が始まった横須賀港は、海軍港として発展してきた。現在、米海軍施設と海上自衛隊の司令部が置かれているこの港では、船内ガイドによる解説とともに米海軍や海上自衛隊の艦船を間近に見られるクルージングツアー「YOKOSUKA 軍港めぐり」が毎日運航している。「YOKOSUKA 軍港めぐり」では、2027年大河ドラマ「逆賊の幕臣」（NHK）を契機に、日本近代化の祖・小栗忠順の情熱に迫る「12時便限定の特別クルーズ」を運航予定。明治時代からタイムスリップしてきた語り部が、横須賀製鉄所の建設秘話や日本初の働き方改革など、今に繋がる歴史の物語を生放送でナビゲート。また、港に停泊している艦船について、案内人が徹底解説。幕末から現代へと時空を超える約45分間の歴史ロマンが楽しめるツアーだ。



個性豊かな案内人のガイドで約45分の廻遊が楽しめる

三笠循環バス＆よこすか満喫きっぷ

観光に便利な乗り物で横須賀を満喫 !!

横須賀市では横須賀駅、三笠公園、ポートマーケット前、横須賀中央駅などをめぐる「三笠循環バス」（大人 220 円、6 ～ 12 歳 110 円）を運行している。2027 年 1 月には大河ドラマ「逆賊の幕臣」（NHK）のラッピングに変更予定だ。

京急の「よこすか満喫きっぷ」（大人 3,010 円～ 3,650 円）は、往復の電車＆バスの乗車券に、食事や買い物、観光施設で使えるチケットが付いたおトクな周遊きっぷ。品川駅・京急川崎駅・横浜駅などから出発でき、フリー区間内の京急線とエリア内の京浜急行バスが乗り降り自由。加盟店舗での食事やお土産選び、観光施設めぐりを楽しめる。



三笠循環バス

よこすか満喫きっぷ



三笠循環バス

「よこすかルートミュージアム」で横須賀をめぐろう

「よこすかルートミュージアム」とは、横須賀に点在する開国から近代につながる歴史、文化の見どころや自然豊かなスポットを「サテライト」と呼び、それらを「ルート」でつなぐことで市内全体を大きな「ミュージアム」としてとらえた横須賀の新しい楽しみ方です。

詳しくは こちら





建物は、本館と別館・谷内六郎館からなり、2024 年にプリツカー賞を受賞した建築家・山本理顕氏が設計

横須賀美術館

山と海、美しい自然も体感できる美術館

緑に囲まれた敷地から東京湾の絶景を望める横須賀美術館は、横須賀市制 100 周年を記念し 2007 年に開館。海側からも山側からも通り抜けができて周辺散策と展覧会観覧の両方を楽しめる。2027 年 7 月～ 9 月には 1 階企画展示室にて、大河ドラマ特別展を開催。小栗忠順の生涯と幕末の歴史を、ゆかりの品や歴史資料を通じて紹介する。



横須賀市鴨居 4-1　TEL 046-822-4000
〈開館時間〉10：00 ～ 18：00
〈観覧料〉一般 450 円　ほか
〈休館日〉毎月第 1 月曜日
（祝日の場合は開館）
12 月 29 日～ 1 月 3 日

横須賀三大グルメ

ご当地グルメを堪能しよう

米海軍の伝統的なハンバーガーのレシピを基に 2008 年に誕生したのが「ヨコスカネイビーバーガー」。明治時代の海軍レシピを再現した「よこすか海軍カレー」は昔なつかしい味わいで、栄養バランスを考えてサラダと牛乳を添えるのが海軍スタイル。2009 年に米海軍横須賀基地がプロデュースした「ヨコスカチェリーチーズケーキ」は、濃厚でクリーミーな味わい。



市内各所の店のほか、ドブ板通りや「いちご よこすかポートマーケット」などでも味わえる

1940 年代後半、横須賀で米海軍からアメリカ文化が広がる中、一般市民が日本で初めてハンバーガーを味わったといわれる



Yokosuka
横須賀
小栗忠順ゆかりの地

最新情報は こちら

ロゴマーク＋横須賀の魅力発信

小栗ゆかりの地・横須賀を表すデザイン

「小栗忠順ゆかりの地 横須賀」推進協議会では、大河ドラマ「逆賊の幕臣」の放送を機に、横須賀市の魅力を全国に発信するロゴマークを作成した。小栗が遣米使節として乗船した「蒸気船」をメインに据え、日本の近代化を表現する「歯車」を背景に配し、「YOKOSUKA」の「Y」は、小栗が米国から持ち帰った「ネジ」をモチーフにしている。また、ロゴマークを活用したお土産、飲食メニュー、宿泊プランなども販売予定だ。



お土産の一例。左からよこすか栗どら焼き、めっき靴ベラ、横須賀 石造りガレット、横須賀おぐりかるた

ドブ板通り

戦後カルチャーが息づくスポット

道の中央にどぶ川が流れていた戦前、人や車の往来をスムーズにするために厚い鉄板で蓋をしたことから「ドブ板通り」と呼ばれるように。明治から太平洋戦争後までは横須賀鎮守府の門前町として、戦後はアメリカ兵向けに土産物店やバー、飲食店などが連なって栄えた。今もなおスカジャン専門店やミリタリーショップ、横須賀グルメが味わえる。



ドブ板通り商店街

ドブイタステーション（案内所）
横須賀市本町 2-7 本町商店会館
TEL 046-824-4917
〈営業時間〉木 金　10：00 ～ 16：00
土日祝 10：30 ～ 16：30
〈定休日〉水曜

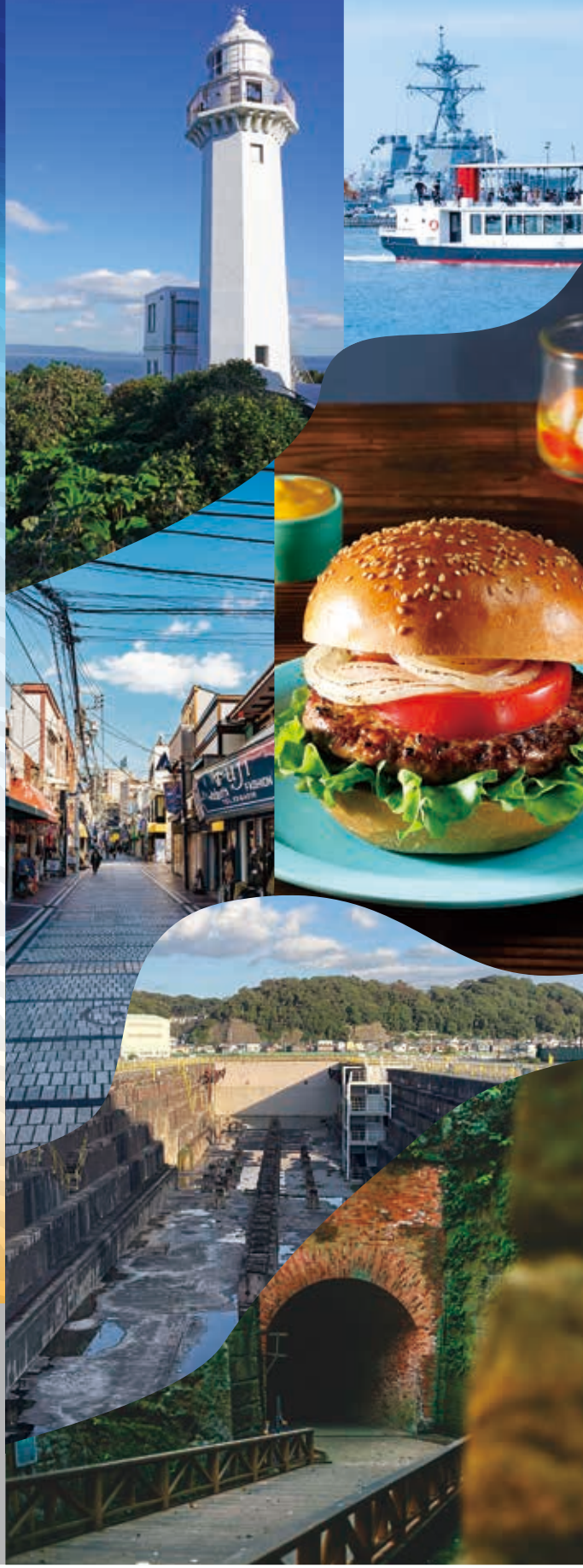
太平洋戦争後自国へ帰還する兵隊向けに作られたスカジャン（横須賀ジャンパー）の始まりの地。観光客にも人気のスポットだ



Yokosuka

横須賀

小栗忠順ゆかりの地



大河ドラマ
逆賊の幕臣

大河ドラマ「逆賊の幕臣」(NHK)
2027年1月10日(日)放送開始！

発行者　横須賀市、横須賀集客促進・魅力発信実行委員会(事務局：横須賀市文化スポーツ観光部観光課　TEL 046-822-9672)
編集　月刊「江戸楽」編集部　　発行年月　2026 年 11 月